

医療福祉支援センター

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	1 人	

2 教員の異動状況

小林 利彦（特任教授）（2010 年 8 月～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	3 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	14 編	(14 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦：退院支援・退院調整業務に関するインターネットアンケート調査. 日本医療マネジメント学会雑誌14(4): 203-208, 2014

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦, 中村高子: 医師事務作業補助者の質的向上への課題-アンケート調査から見えること -. 医療秘書実務論集 4:29-34, 2014
2. 小林利彦: 医師と事務職員の視点の違い～診療情報の二次活用において～. 日本糖尿病情報学会誌 12:73, 2014
3. 小林利彦, 中村高子: 医師事務作業補助者の「生涯教育システム」確立に向けたモデル構築. 日本医療秘書実務学会 第5回全国大会プログラム・要旨集: 40-41, 2014

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦: 日本医師会医療情報システム協議会に参加して. 静岡県医師会報 第1512号: 5-8, 2014
2. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第8回 「診療報酬改定騒動」の裏で動いていること. 医事業務 449: 61, 2014
3. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第9回 「平成26年度診療報酬改定」の影響と対策. 医事業務 451: 2, 2014
4. 小林利彦, ほか: 座談会 プロジェムとチームで乗り越えた特定共同指導を振り返って. 医事業務 452: 4-26, 2014
5. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第10回 社会保険労務士について. 医事業務 453: 2, 2014
6. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第11回 診療録管理体制加算1について. 医事業務 455: 2, 2014
7. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第12回 日本医療連携研究会について. 医事業務 458: 2, 2014
8. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. すべては「人口問題」に起因する. 医事業務 460: 2, 2014
9. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 急性期病院は高齢者対応が急がれる. 医

事業務 462 : 2, 2014

10. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. Teaming (チーミング) は動詞である.
医事業務 464 : 2, 2014

11. 小林利彦 : 病院の「チーム医療」の本質. 病院 74(2):106-111, 2015

12. 小林利彦 : チーム医療と診療情報管理. 日本診療情報管理士会誌 8(1) : 37-53, 2015

13. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 療養病床も「データ管理」に時代が来る? 医事業務 466 : 2, 2015

14. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 病棟単位で患者を「収斂」する工程. 医事業務 469 : 2, 2015

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	3 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	3 件
(3) 学会座長回数	0 件	1 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	2 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第 21 回日本医療マネジメント学会・静岡県支部学術集会. 浜松. 2014.8.2

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 小林利彦. 地域連携室に専任医師が居ると出来ること..第 11 回国立大学医療連携・退院支援
関連部門連絡協議会. 2014.7. 長崎

2. 小林利彦. 「平成 26 年度診療報酬改定」から見える 地域連携室の将来像.第 1 回日本医療連
携研究会-国立大学病院. 2014.7. 長崎

3. 小林利彦. チーム医療と診療情報管理. 日本診療情報管理士会 平成 26 年度全国研修会.
2014.7. 京都

3) シンポジウム発表

1. 小林利彦.: 前方連携システムの現況と今後の課題 -医師の役割について-. 第 11 回国立大学
医療連携・退院支援関連部門連絡協議会. 2014.7. 長崎

2. 小林利彦.: 退院支援・退院調整に関わる看護師に期待すること -医師の立場から-. 第 18 回
日本看護管理学会学術集会. 2014.8. 愛媛

3. 小林利彦: 病床機能報告制度を見据えた 地域の DPC 関連データの試行分析. 日本医療情報
学会ミニテーマ学術集会. 「地域医療情報連携～継続可能な情報基盤を実現するために」.
2014.10. 名古屋

4) 座長をした学会名

1. 第 21 回日本医療マネジメント学会・静岡県支部学術集会. 一般口演 (退院支援・地域包括ケ
ア) . 2014.8. 浜松

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本医療情報学会 評議員

日本医療秘書実務学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道

1. FM ラジオ (K-MIX) 出演, 「浜松健康フォーラム」キャンペーン, 2013 年 4 月 28 日
2. SBS ラジオ出演, 「サンデークリニック 2 時間スペシャル」, 2015 年 3 月 15 日